

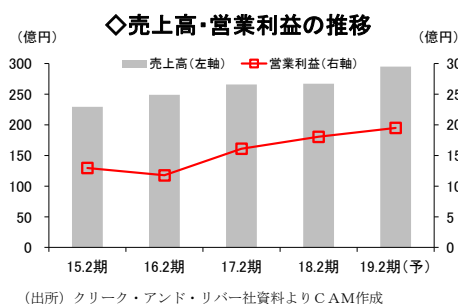
企業ニュース クリーク・アンド・リバー社

(東証1部 : 4763) <http://www.cri.co.jp/>

作成者: 村上大志

プロフェッショナル人材に特化

1990年設立。1991年、一般労働者派遣事業の許可を取得。クリエイティブ分野（テレビ番組、映画製作、ゲーム、Web等）で顧客の開拓を進め、医療やIT、法曹、会計分野などへ事業領域を拡大した。事業の中核はエージェンシーで、取引先に対し当社に登録しているプロフェッショナル（専門家）の派遣・紹介を行う。プロデュースでは当社内のプロフェッショナル人材でチームを編成し仕事を請け負うことが多く、競合他社に対する強みとなっている。著作権の管理や流通などのライツマネジメントも手掛けている。19.2期・第3四半期末時点の登録者数は23万5,000人。18.2期の事業別売上高構成比はエージェンシー54%、プロデュース39%、ライツマネジメント他7%。



グループ拠点集約によるシナジー効果に期待

19.2期・第3四半期累計（3-11月）の連結業績は売上高が220億8,400万円、前年同期比9%増、営業利益が13億9,200万円、同6%減。グループ拠点集約に伴う本社移転費用の計上で減益となったが、一時的な費用の影響を除いた営業利益では同10%増、営業利益率は7.4%、同0.1%ポイント改善と業績は堅調に推移した。エージェンシー、プロデュースともに伸長しており、特にプロデュースでの高利益率案件の増加が業績に寄与した。人員増強や新規分野の立ち上げ等で販管費は増加したが、既存事業の成長で吸収した。

19.2期の会社計画は売上高が295億円、前期比10%増、営業利益が19億5,000万円、同8%増。業績は計画通りに進捗している模様。10月に移転した新オフィスにゲームやVR、テレビ、Web、動画など各分野に特化したスタジオを設置し、労働環境を改善させた。国内のクリエイティブ分野における10月の月次売上高が過去最高水準だった模様。今後はグループ拠点集約によるシナジー効果が加わることでさらなる伸長が期待できよう。

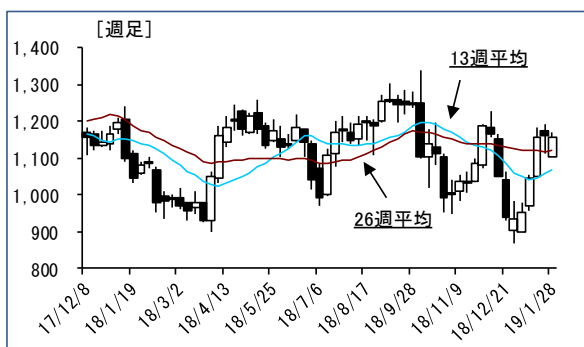
[株価動向・投資判断]

プロフェッショナル人材のネットワークが拡大し、他の人材派遣会社との差別化・高付加価値化を実現している点を評価したい。

<4763 C&R 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高		営業利益		経常利益		当期利益		1株利益	1株配当
	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	円	円
17.2	26,581	(7)	1,610	(37)	1,477	(32)	892	(42)	42.9	9.00
18.2	26,708	(0)	1,806	(12)	1,824	(23)	1,103	(24)	52.3	11.00
19.2 予	29,500	(10)	1,950	(8)	1,950	(7)	1,150	(4)	54.2	12.00



[主要株価指標] (売買単位 : 100株)

株価 (2019/1/28)	1,158 円
昨年来高値 (高値日)	1,340 円 (18/10/4)
同 安値 (安値日)	870 円 (18/12/25)
予想 P E R (19.2 予)	21.4 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	331.0 円
P B R	3.50 倍
予想配当利回り	1.04 %
(1株当たり配当金12.00円)	
R O E (18.2)	18.3 %
発行済み株式数	2,261 万株